

難民支援 NGO “Dream for Children” 2015 年度活動報告書



目次

ご挨拶	2
2015年度の子ベットの状況	3
2015年度のビルマの状況	7
2015年度の活動	8
2015年度会計	13
2016年度の重点活動分野	14
中長期計画	15
付録1：チベット難民からのサンクスレター	14
付録2：チベット難民の生徒たちは今	15

[表紙写真]

熊本地震の被災者に祈るチベット難民の生徒たち

ご挨拶

平素より格別のご支援をいただきまして、ありがとうございます。

この報告書を作成している最中、熊本で地震が起こりました。その直後、チベット難民の学校の生徒たちが“Pray for Japan”のカードを掲げ、祈っている写真を送ってくれました。また、支援先チベット女性協会もお経を数万回唱えてくれました。

日本からのチベット支援は低調で、チベット難民が日本人から直接恩恵を受けることは少ないです。2016年1月、チベット亡命政権ロブサン・センゲ首相が来日されましたが、ほとんどの日本の政治家が会談せず、マスコミもほとんど報道しませんでした。このような日本側の冷淡な態度にもかかわらず、チベット難民の人たちは日本の震災被災者のために祈ってくれました。

ある意味優しい心を持っていたがために弾圧を受けて亡命を余儀なくされた彼らですが、優しい心を持った彼らに明るい未来が訪れることを願います。

代表 亀田浩史

2015 年度の子ベットの状況

チベット本土は、依然として、中国政府によるチベット人への激しい民族弾圧・宗教弾圧が続いています。

【続く焼身自殺】

2011 年から急増している焼身自殺が 2015 年度も続きました。2015 年度は、チベット本土で 7 人が、中国政府のチベット弾圧政策に抗議して自らの体に火を放ちました。2015 年度末でのチベット本土の累計の焼身自殺者は 144 人となりました。

中国当局は焼身自殺者の家族に対する取り締まりも強めています。連帯責任として家族を拘束したり、焼身自殺ではなく火事だとするよう遺族に強要したりしています。

事態の広がりを受け、インドのダラムサラのチベット博物館にも焼身自殺特設コーナーが設置されました。



焼身自殺者に祈りを捧げるチベット難民の子供

【インドのチベット難民街でも 16 歳のチベット難民が焼身自殺】

2016 年 2 月 29 日、インドのヘルベルトプールでチベット難民ドルジェ・ツェテンが焼身自殺をはかり、その後、息絶えました。

死の間際、ドルジェ・ツェテンは次のような言葉を残しました。

「僕の体にバターランプのように火をともしたのは、チベットが 1959 年に中国に占領されたからです。僕は、いつも、チベットのために何かする必要があると感じていました。自分に火を放つことが、僕に残された唯一の手段だと思いました。

僕の焼身自殺のニュースを聞いた人はショックを受けるでしょう。人々は、少年が国のために焼身自殺したと考え、問題提起をすることになるでしょう。イギリス、アメリカ、アフリカの人たちがチベットのことを知り、より強く支援してくれることを願っています。チベットの自由、そして、ダライ・ラマ法王が何千年も生きられることを願います。」

【不当に終身刑を受けたテンジン・デレク・リンポチェが獄中死】

2015 年 7 月 12 日、チベットの高僧テンジン・デレク・リンポチェが獄中死しました。表向きは心臓の病気が原因となっていますが、遺体の爪と唇が不自然に黒くなっていたとの情報から毒殺の可能性もあります。死因の説明を求めたテンジン・デレク・リンポチェの親族は中国当局に拘束されました。

テンジン・デレク・リンポチェは、2002 年の爆発事件に関与したとして終身刑を受けました。しかし、事実誤認であるとして、多くの人権団体が抗議しており、釈放を求める署名も数万人分集まっていました。

テンジン・デレク・リンポチェの死を悼むために集ったチベット人に対し、中国警察は発砲しました。



テンジン・デレク・リンポチェに祈りを捧げるチベット難民

【チベット難民街ダラムサラのテロ警戒レベル下がる】

インド最大のテロ組織インディアン・ムジャヒディーンがチベット難民街ダラムサラでテロを計画していたことから、この数年ダラムサラのテロ警戒レベルが上がっていました。しかし、テロの危険性が下がったとの判断から、ダラムサラのテロ警戒レベルが通常に戻りました。チベット僧院内へのカメラ、携帯電話などの持ち込みも可能になっています。

インディアン・ムジャヒディーンは、インド国内テロからイスラム国への人員動員に方針を変えているようです。

【チベット亡命政権ロブサン・センゲ首相来日】

2016年1月、チベット亡命政権ロブサン・センゲ首相が来日され、チベットの現状を訴えました。来日時は首相選の最中でしたが、4月の開票の結果、再選を果たし、2期目に入ります。



来日されたロブサン・センゲ現首相と代表亀田浩史

【ネパール大震災】

2015年4月25日、ネパールで大震災が発生しました。亡命するチベット難民のほとんどはまずネパールに入ります。そのままネパールに留まる人もいれば、別の国に移る人もいます。難民支援NGO“Dream for Children”の学校の生徒も被災しました。

支援活動にあたっては、ティテン・ノルブツェ僧院のチベット僧の活躍が特筆に値します。僧侶たちは、食糧配給、避難場所の提供、医療の提供を精力的に行いました。

みなさまからいただいた義援金1万円は、被災したチベット難民の生徒と、ネパールに提携先を持つチベット子供村にお渡ししました。

2015年度のビルマの状況

我々の直接の支援先であるビルマ東部では大きな事件はなく小康状態ですが、ビルマ西部を中心に情勢は不安定です。そのため、難民の人たちが今すぐ安全に帰国できるとは言えない状況です。

【総選挙で国民民主連盟が圧勝】

2015年11月、総選挙が行われ、アウンサンスーチー率いる国民民主連盟が勝利を収めました。これにより、軍の息がかからない政権が誕生することになります。

新政権誕生後、国内情勢が安定し、難民が帰国できる状況になるかどうかはまだわかりません。

【ロヒンギャ人の亡命】

国連から「世界で最も迫害されている民族」と呼ばれているイスラム教徒のロヒンギャ人の亡命が5月に相次ぎました。数千人がビルマ西部のラカイン州をボートで脱出し、海路で隣国を目指しました。この際、目的地にたどり着かず、海上を数千人が彷徨いました。その後、周辺国が対応を協議し、海上を漂流する人々を救助しました。しかし、救助前に命を落とした人もいます。

仏教徒過激派はロヒンギャ人の国内追放を求めており、仏教徒とイスラム教徒の対立は依然続いています。

このロヒンギャ人の問題については、アウンサンスーチーは口を閉ざしてきました。総選挙で勝利するため、多数派の仏教徒の顔色を窺ったと思われます。



タイで暮らすビルマ難民。彼らがいつ安全に帰国できるかはわからない。

2015 年度の活動

	国内の活動	現地の活動
4月	ロビー活動 国際人養成事業	
5月		
6月		
7月		インドのチベット難民街での支援活動 <ul style="list-style-type: none"> ・物資支援 ・英語教育 ・コンピュータ教育 ・その他就職対策教育 ・現地調査
8月		
9月		
10月	・チャリティ英語セミナー（名古屋）	
11月	ロビー活動 国際人養成事業	
12月		
1月	・チャリティ英語セミナー（名古屋）	
2月	ロビー活動、国際人養成事業	
3月	・国際協力セミナー 『チベット難民の今 ～今同じ地球の上 で起きていること～』	

国内の活動

国内では難民問題の啓発活動に重点を置いて活動を継続しています。

【ロビー活動】

2015年度は、日本の政治家にチベット問題を知ってもらうためのロビー活動を実施しました。大臣経験者を含む複数の政治家に直接チベットの現状をお伝えしました。

【講演会】

2015年度もチベット難民関連のセミナーを行いました。我々が釈放を求め続けてきたチベット人映画監督ドンドゥプ・ワンチェン釈放のニュースや、イスラム国に殺害された盟友の活動家ケイラ・ミュラーの話も取り上げました。

セミナーは、これまで講演会参加者の94%の方に、「非常に満足」、「満足」とご回答いただいています。

【ブログでの啓発活動】

現地メディアのニュースのうち日本のメディアが取り上げない情報を中心に、ブログで情報拡散を続けています。ブログのアクセス数も250万を突破し、多くの方に見ていただけるようになってきました。

【国際人養成事業：名古屋英語特訓道場】

チャリティセミナーとして2回のセミナーを行いました。また、通期での英語指導も行っています。収益は難民支援活動にあてています。

現地の活動

ビルマ東部と比較してチベット情勢が著しく悪いため、2015年度もインドのチベット難民街で集中的に活動を行いました。

【物資支援】

文具、衣類を、チベット難民の子供たちが暮らすチベット子供村へお届けしました。



亡命直後のチベット難民の子供

【チベット難民の学校での英語・コンピュータ教育】

亡命直後で言葉が通じず困窮している難民向けの英語教育を継続しています。また、就職に有利になるようコンピュータ教育も実施しています。

さらに、放課後の空き教室を使って、過去に不当投獄・拷問を受けたチベット人の話を聞く場を設け、外国人向けに啓発活動を行っています。



チベット難民の学校の様子

[学校のトピック：イスラム国に殺害されたケイラへの祈りの旗づくり]

かつてこの学校で教え、2015年にイスラム国による拘束中に殺害されたケイラ・ミユラーへの祈りの旗をつくりました。



ケイラ・ミュラーへの祈りの旗

【チベット難民女性の職業訓練所の製品を売る店がオープン】

支援先チベット女性協会の職業訓練所でつくった商品を守る店がオープンしました。

職業訓練所では、亡命して間もない人たちが職業訓練として民芸品をつくっています。



オープンした職業訓練所の店

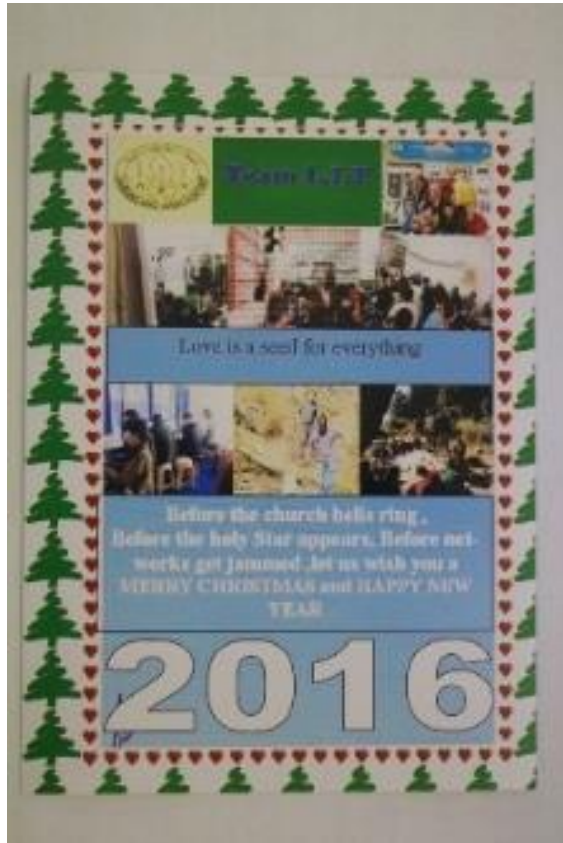
2015 年度会計

単位 [円]

前年度繰越	▲ 410,428
収入	
事業収入	1,741,516
会費収入	85,000
助成金	0
寄付（一般寄付）	3
寄付（現地支援寄付）	38,550
計	1,865,069
支出	
啓発事業費	205,949
海外事業費	199,488
国際人養成事業費	128,837
現地への寄付	136,855
旅費・交通費	374,986
管理費	629,000
広告費	133,089
印刷費	41,385
送料	30,825
計	1,880,414
今年度収支	▲ 15,345
次年度繰越	▲ 425,773

【付録 1：チベット難民からのサンクスレター】

[チベット難民の学校から]



[チベット子供村から]



[チベット女性協会から]



【付録 2：チベット難民の生徒たちは今】

1. ギャレット（仮名）



亡命して自由の身となった今、苦しんでいるチベット人のために何かをしたいと心に誓った彼女は、英語を学び、今は我々の支援先でもある NGO チベット女性協会で働いています。

主にチベット難民とインド人との共生を担当している彼女は、インド独立記念日に、インド人に感謝の気持ちを伝えていました。

主にチベット難民とインド人との共生

2. クルーズ（仮名）



子供の時に一人で亡命した彼女。チベット難民街の劣悪な環境の中、結核を患い長年闘病生活を送ってきました。

病気が癒えた後、英語の勉強を一生懸命頑張り、今は親族がいるアメリカに渡って暮らしています。

※彼女の家族はチベット本土におり、彼女の亡命が中国政府にばれると、彼女の家族が迫害を受ける可能性があるため、彼女の顔写真は載せられません。